

2013年 9 月22日 実施

平成25年度（第49回）
情 報 処 理 検 定 試 験
〈プログラミング部門〉
第 2 級 試 験 問 題

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで，試験問題に手を触れないでください。
2. 試験問題は10ページあります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入します。
4. 【1】 【2】 【3】 【4】 【5】 【6】 は共通問題です。
5. 【7】 の問題は J a v a ・ マクロ言語 ・ COBOL の い ず れ か 1 つ を
選択し，解答用紙の選択言語を ☐ で囲んでください。
6. 電卓などの計算用具は使用できません。
7. 筆記用具などの物品の貸借はできません。
8. 問題用紙の回収については監督者の指示にしたがってください。
9. 制限時間は50分です。

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

【1】 次の説明文に最も適した答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

1. C Gソフトウェアにおいて、重ねたり入れ替えたりすることができる層。
2. 数値データを記憶すべき場所に、数値以外のデータが含まれていないかを調べること。
3. ソフトウェアの設計上のミスや不具合などによる安全機能上の欠陥。
4. インターネットの技術を利用して構築する、会社内など限定された範囲での組織内ネットワーク。
5. 文字データだけではなく、画像や音声などのデータも保存できる2進数形式のファイル。

解答群

- | | | | |
|----------------|--------------|------------|-------------|
| ア. テキストファイル | イ. シーケンスチェック | ウ. レイヤー | エ. バイナリファイル |
| オ. ニューメリックチェック | カ. ピクセル | キ. イン트라ネット | ク. アップロード |
| ケ. ブロードバンド | コ. セキュリティホール | | |

【2】 次のA群の語句に最も関係の深い説明文をB群から選び、記号で答えなさい。

- < A 群 > 1. 磁気ディスク装置 2. C S V 3. A N S I
 4. 肖像権 5. グローバル変数

< B 群 >

- ア. データをコンマで区切って記録した、アプリケーションソフトのデータ交換に使われるファイル形式。
- イ. プログラムのどこからでもアクセスすることが可能であるが、そのため規模が大きいとプログラム上のミスが出やすい変数。
- ウ. 工業製品の品質マネジメントや、組織の環境マネジメントなどについての国際標準化を推進する団体。
- エ. 音楽や絵画など、人間の創作活動から生まれたものを保護する権利。
- オ. データを読み書きする記録単位で、トラックを円の中心から放射状に分割した領域。
- カ. 磁性体を塗布したディスクを高速で回転させ、データの読み書きを行う装置。
- キ. インターネットを中心に普及している、フルカラーの画像を劣化することなく圧縮できる画像形式。
- ク. アメリカ国内における工業製品の規格の標準化を行う団体。
- ケ. 自分の写っている写真を、無断で使用されないように主張できる権利。
- コ. オブジェクトの持つ性質や属性のこと。

【3】 次の説明文に最も適した答えをア、イ、ウの中から選び、記号で答えなさい。

1. 2進数の1101と2進数の111の積を表す10進数。

- ア. 91 イ. 105 ウ. 117

2. 通信データを一定の長さに分割し宛先や経路情報などを付加した、通信を行うときの単位。

- ア. C A T V イ. パケット ウ. W i - F i

3. ネットワークに接続しているコンピュータに対して、外部からの不正なアクセスを遮断するシステム。

- ア. ファイアウォール イ. ピアツーピア ウ. クライアントサーバシステム

4. 一定数以上の個人情報を取り扱う事業者に対して、個人情報の不正な利用やずさんな管理をしないように、事業者が守るべき義務などを定めた法律。

- ア. サイトライセンス イ. 知的財産権 ウ. 個人情報保護法

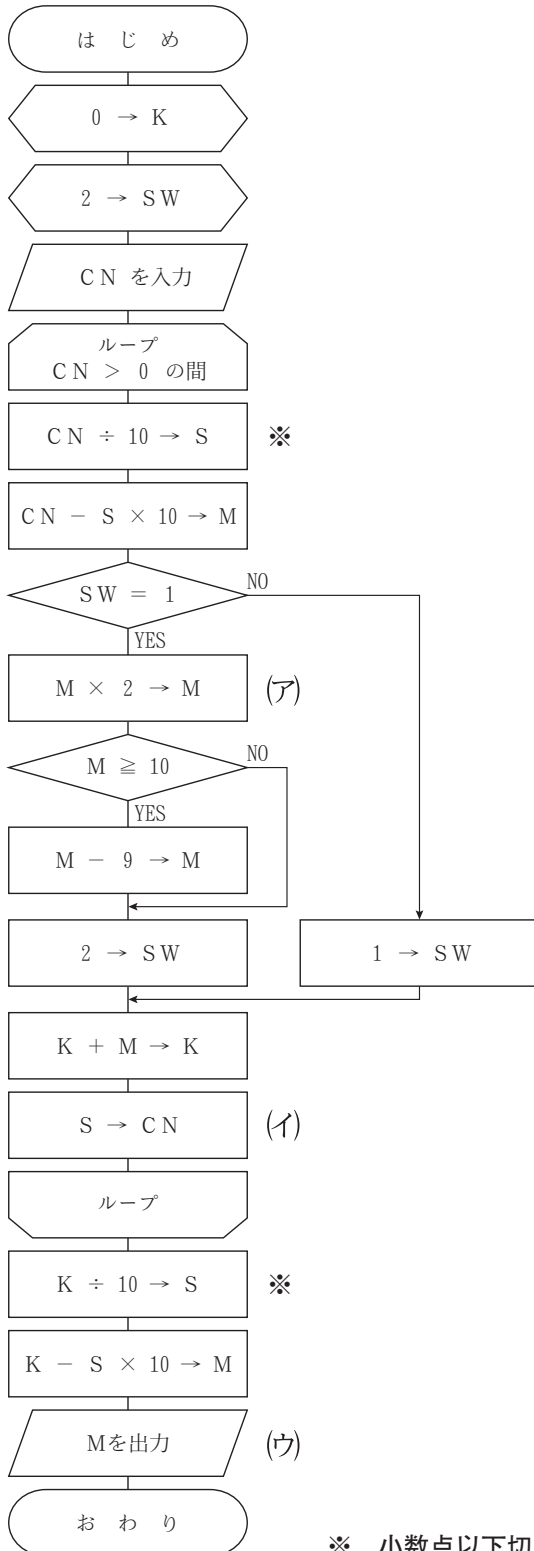
5. 第三者に意味が分からないように加工されたデータを、元に戻すこと。

- ア. 解像度 イ. 暗号化 ウ. 復号

【 4 】 流れ図にしたがって処理するとき、(1)～(5)を答えなさい。

- (1) C N の値が3566 のとき、(ア)の処理を何回実行するか答えなさい。
- (2) C N の値が3566 のとき、(ウ)で出力される M の値を答えなさい。
- (3) C N の値が387 のとき、(イ)の処理を 2 回実行したあとの C N の値を答えなさい。
- (4) C N の値が9843 のとき、(ウ)で出力される M の値を答えなさい。
- (5) 流れ図の処理について説明した文のうち、正しいものはどれかア～ウから選び、記号で答えなさい。
 ア. 入力した C N の値にかかわらず10回ループを繰り返す。
 イ. 入力した C N のけた数だけループを繰り返す。
 ウ. 処理が終了したとき、S W の値は必ず 1 である。

<流れ図>



※ 小数点以下切り捨て

【 5 】 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

入力データを読み、午前と午後の人数から参加者集計結果を表示する。

入力データ

コード (Kodo)	午前 (Gozen)	午後 (Gogo)
×××	××	××

(第 1 図)

実行結果

(ガイダンス参加者集計結果)				
(コード)	(午前)	(午後)	(計)	(備考)
G01	22	36	58	
G02	45	58	103	○
G03	19	22	41	
}	}	}	}	
G08	51	64	115	○
G09	36	48	84	
G10	65	81	146	○
		(合計)	772	
		(○の数)	3	
(最小計のコード) G03			(最小計) 41	

(第 2 図)

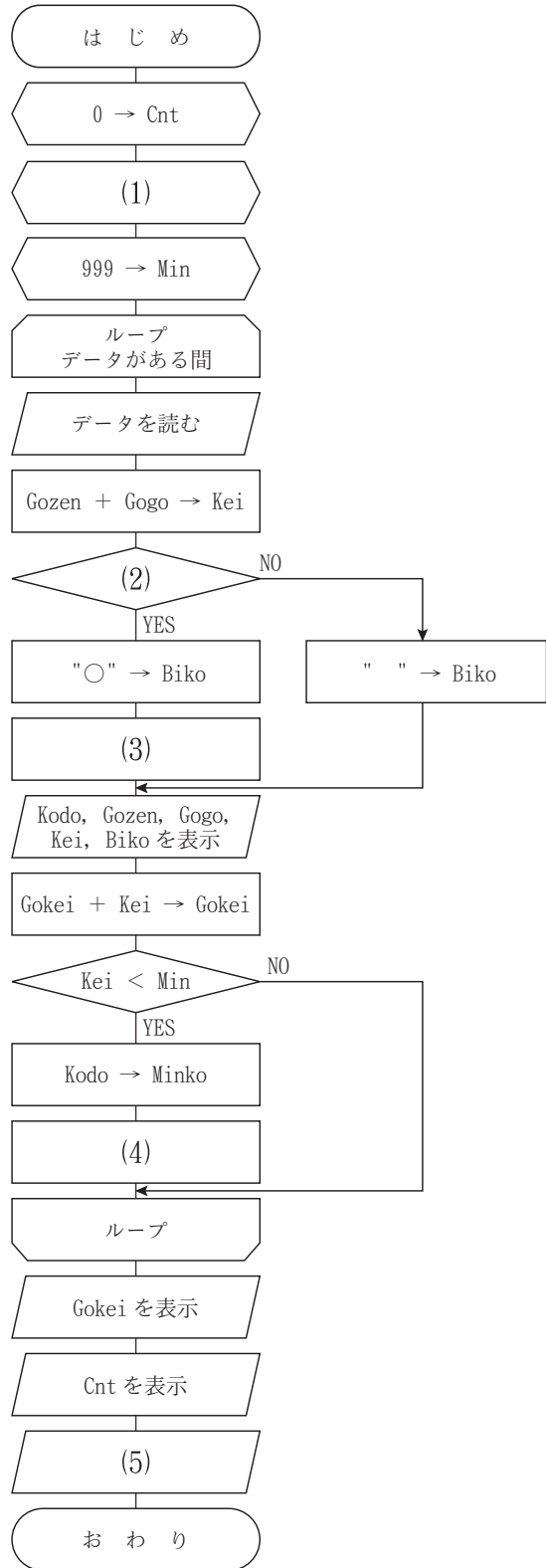
処理条件

- 第 1 図の入力データを読み、午前と午後の計を求め、第 2 図のようにディスプレイに表示する。なお、計が 100 以上の場合、備考に「○」を表示する。
- 入力データが終了したら、第 2 図のように合計、○の数、最小計のコードおよび最小計をディスプレイに表示する。なお、最小計のコードと最小計は、同じ計があった場合、先のデータを優先する。
- データにエラーはないものとする。

解答群

- ア. $Cnt + 1 \rightarrow Cnt$
 イ. $Kei \leq 100$
 ウ. $Min \rightarrow Kei$
 エ. Minko, Min を表示
 オ. $0 \rightarrow Kei$
 カ. $Kei \rightarrow Min$
 キ. $Kei \geq 100$
 ク. Kodo, Min を表示
 ケ. $Gokei + 1 \rightarrow Gokei$
 コ. $0 \rightarrow Gokei$

<流れ図>



【6】 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

入力データを読み、商品コードと数量から金額を求め
売上明細を表示し、比率を求め商品別売上一覧を表示する。

入力データ

伝票番号 (Denban)	商品コード (Scode)	数量 (Su)
××××	×××	××

(第1図)

実行結果

(売上明細)				
(伝票番号)	(商品名)	(数量)	(金額)	
1001	○～○	8	11,840	
1002	△～△	7	5,460	
}	}	}	}	
1126	◇～◇	11	9,240	
(金額合計)			794,290	
(商品別売上一覧)				
(商品名)	(数量計)	(金額計)	(比率(%))	(判定)
○～○	29	42,920	5.4	*
×～×	23	16,560	2.0	
}	}	}	}	}
△～△	18	14,040	1.7	

(第2図)

処理条件

1. 配列 Scd に商品コード、配列 Nam に商品名、配列 Tan に単価を記憶する。なお、商品は50種類あり、各配列は添字で対応している。

配列

Scd	(0)	(1)	(2)	～	(49)
	101	102	103	～	906

Nam	(0)	(1)	(2)	～	(49)
	○～○	×～×	□～□	～	△～△

Tan	(0)	(1)	(2)	～	(49)
	1480	720	1280	～	780

2. 入力データを読み、商品コードをもとに配列 Scd を探索し、金額を次の計算式で求め、伝票番号から金額までを第2図のようにディスプレイに表示し、金額合計を集計する。また、配列 Skei に数量計を集計する。

$$\text{金額} = \text{数量} \times \text{単価}$$

配列

Skei	(0)	(1)	(2)	～	(49)
				～	

3. 入力データが終了したら、金額合計をディスプレイに表示する。また、比率(%)を次の計算式で求め、商品別売上一覧をディスプレイに表示する。なお、金額計が2万円を超え、かつ比率(%)が5.0以上の場合、判定に「*」を表示する。

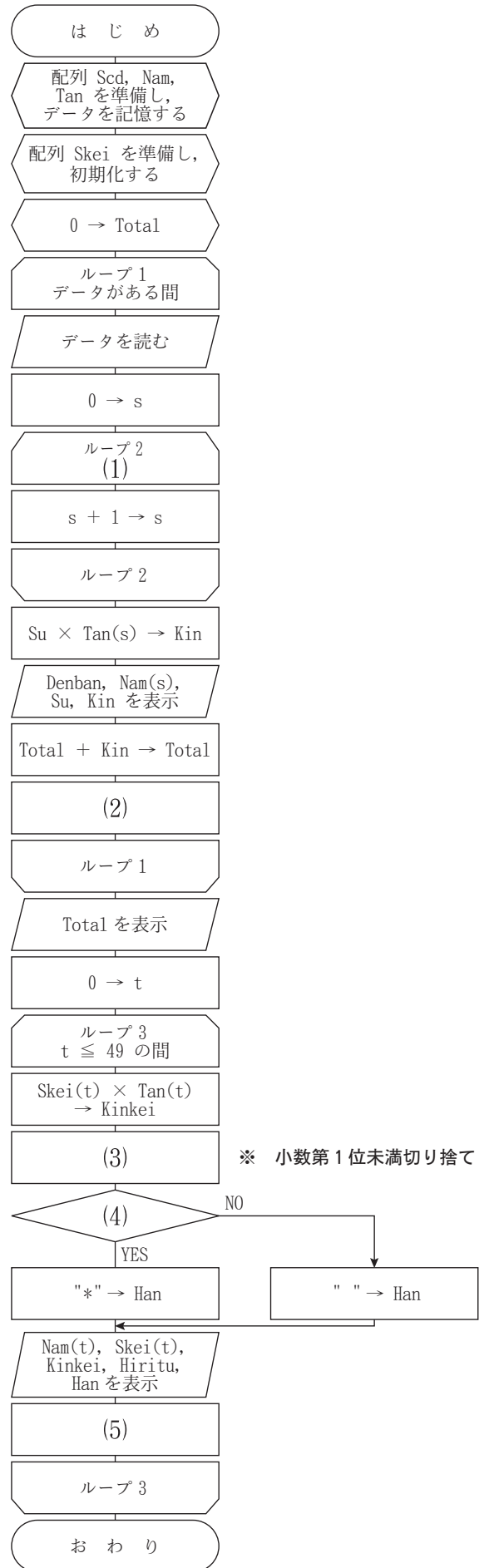
$$\text{比率(\%)} = \text{各商品の金額計} \times 100 \div \text{金額合計}$$

4. データにエラーはないものとする。

解答群

- ア. Skei(s) + Kin → Skei(s)
 イ. t + 1 → t
 ウ. Scd(s) ≠ Scode の間
 エ. Kinkei ≥ 20000 かつ Hiritu > 5.0
 オ. Kinkei × 100 ÷ Total → Hiritu
 カ. s + 1 → s
 キ. Scd(s) = Scode の間
 ク. Kinkei > 20000 かつ Hiritu ≥ 5.0
 ケ. Skei(s) + Su → Skei(s)
 コ. Skei(t) × 100 ÷ Total → Hiritu

<流れ図>



【7】 次の各問いに答えなさい。

問1. プログラムの説明を読んで、プログラムの(1)を答えなさい。

<プログラムの説明>

処理内容

ラジオ体操の出席者のデータを入力し、景品を表示する。

入力データ

年齢 ××	出席日数 ××
----------	------------

 (第1図)

実行結果

年齢: 10
出席日数: 20
[景品] 普通菓子・ノート
年齢:

 (第2図)

処理条件

1. キーボードから第1図の年齢と出席日数を入力する。
2. 入力データを年齢区分にしたがって判定し、景品を決定する。
なお、出席日数が10以上の場合、ノートを景品に追加する。

年齢区分	6歳以下	7歳以上12歳未満	12歳以上
景品	幼児菓子	普通菓子	菓子なし

3. 景品を第2図の実行結果のようにディスプレイに表示する。
4. キーボードから年齢に -1 が入力されたら処理を終了する。

<Javaプログラム>

```
//クラス RadioTaiso
import java.util.Scanner;

public class RadioTaiso {
    public static void main(String[] args) {
        Scanner sc = new Scanner(System.in);
        int nen, nissu;
        String keihin;
        System.out.print("年齢:");
        nen = sc.nextInt();
        while(nen != -1) {
            System.out.print("出席日数:");
            nissu = sc.nextInt();
            if(nen <= 6) {
                keihin = "幼児菓子";
            } else if((1) 12) {
                keihin = "普通菓子";
            } else {
                keihin = "菓子なし";
            }
            if(nissu >= 10) {
                keihin = keihin + "・ノート";
            }
            System.out.println("[景品]" + keihin);
            System.out.print("年齢:");
            nen = sc.nextInt();
        }
        sc.close();
    }
}
```

問2. プログラムの説明を読んで、プログラムの(2)~(3)を答えなさい。

<プログラムの説明>

処理内容

大声コンテストのデータを入力し、最高と平均を求めて表示する。

入力データ

音量 ×××

 (第1図)

実行結果

音量を入力
72
65
}
84
103
76
83
0
[最高]103
[平均]82

 (第2図)

処理条件

1. キーボードから第1図の音量を入力する。
2. キーボードから音量に 0 が入力されたら、第2図の実行結果のように音量の最高と平均をディスプレイに表示する。
なお、音量が同じ場合、先に入力したデータを優先する。

<Javaプログラム>

```
//クラス Contest
import java.util.Scanner;

public class Contest {
    private int saiko = 0;
    private int gokei = 0;
    private int ninzu = 0;
    public void input() {
        Scanner sc = new Scanner(System.in);
        int onryo;
        System.out.println("音量を入力");
        onryo = sc.nextInt();
        while(onryo != 0) {
            if(onryo > saiko) {
                (2) = onryo;
            }
            gokei = gokei + onryo;
            ninzu = ninzu + 1;
            onryo = sc.nextInt();
        }
        sc.close();
    }
    public void output() {
        int heikin;
        System.out.println("[最高]" + saiko);
        heikin = (3);
        System.out.println("[平均]" + heikin);
    }
    public static void main(String[] args) {
        Contest co = new Contest();
        co.input();
        co.output();
    }
}
```

問 3. プログラムの説明を読んで、プログラムの(4)～(5)を答えなさい。

<プログラムの説明>

処理内容

乗車駅と降車駅の番号を入力すると、2 駅間の全ての駅名と距離を表示する。

入力データ

乗車駅番号 ××	降車駅番号 ××
-------------	-------------

(第 1 図)

実行結果

乗車駅番号を入力：15 降車駅番号を入力：16

[番号]15[駅名]祭公園 [番号]16[駅名]天女寺
[2 駅間の距離]0.6[キロ]

乗車駅番号を入力：16 降車駅番号を入力：14

[番号]14[駅名]富士台 [番号]15[駅名]祭公園 [番号]16[駅名]天女寺
[2 駅間の距離]1.5[キロ]

乗車駅番号を入力：

(第 2 図)

処理条件

1. 配列 ekimei には駅名を、配列 kyori には 1 つ前の駅からの距離を記憶する。なお、各配列は添字で対応している。

配列

ekimei	(0)	(1)	～	(14)	(15)	(16)
	新都市	学園前	～	富士台	祭公園	天女寺

kyori	(0)	(1)	～	(14)	(15)	(16)
	0.0	0.5	～	1.0	0.9	0.6

2. キーボードから第 1 図の乗車駅番号と降車駅番号を入力する。
3. 2 駅間の全ての駅名と距離を第 2 図の実行結果のようにディスプレイに表示する。
4. キーボードから乗車駅番号に 99 が入力されたら処理を終了する。

<J a v a プログラム>

```
//クラス EkiKyor
import java.util.Scanner;

public class EkiKyor {
    public static void main(String[] args) {
        String[] ekimei = {
            "新都市", "学園前", "駒場", "池野原", ～
            "富士台", "祭公園", "天女寺" };
        double[] kyori = {
            0.0, 0.5, 0.9, 1.0, ～ 1.0, 0.9, 0.6 };
        Scanner sc = new Scanner(System.in);
        double kyoriKei;
        int noru, oriru, hajime, owari, i;
        System.out.print("乗車駅番号を入力：");
        noru = sc.nextInt();
        while(noru != 99) {
            System.out.print("降車駅番号を入力：");
            oriru = sc.nextInt();
            if(noru < oriru) {
                hajime = noru;
                owari = oriru;
            } else {
                hajime = oriru;
                owari = noru;
            }
            System.out.println("-----");
            kyoriKei = 0;
            for( (4) ; i < owari ; i = i + 1) {
                System.out.println("[番号]" + i +
                    "[駅名]" + ekimei[i]);
                (5) = kyoriKei + kyori[i + 1];
            }
            System.out.println("[番号]" + i +
                "[駅名]" + ekimei[i]);
            System.out.println("");
            System.out.println("[ 2 駅間の距離]" +
                kyoriKei + "[キロ]");
            System.out.println("-----");
            System.out.print("乗車駅番号を入力：");
            noru = sc.nextInt();
        }
        sc.close();
    }
}
```

【7】 プログラムの説明を読んで、プログラムの(1)～(5)を答えなさい。

＜プログラムの説明＞

処理内容

映画データと営業データを読み、ユーザーフォームから目標人数を入力し、集計結果を表示する。

入力データ

映画データ(ファイル名：eiga.csv)

映画名
××～××

(第1図)

営業データ(ファイル名：eigy.csv)

曜日コード	映画コード	上映時間帯	年齢区分	人数
×	×	×	×	×××

(第2図)

ユーザーフォーム・実行結果

(TextBox1)

処理

クリア

終了

映画別集計

映画名	人数計	料金計
○ ～ ○	1,147	1,458,000
△ ～ △	772	981,700
● ～ ●	985	1,248,500
}	}	}
□ ～ □	1,574	2,002,200
◇ ～ ◇	1,062	1,347,800
合計	10,854	13,788,800

年齢区分別集計

	人数計
一般	4,273
大学生／高校生	1,716
中学生	1,441
子ども	1,295
シニア	2,129

人数計の合計と
目標人数の差

854

(第3図)

処理条件

- 第1図の映画データには映画名が記録されている。
- 第2図の営業データは次のとおり構成されている。
 - 曜日コードは1(月)～7(日)である。
 - 映画コードは1～10であり、配列 Emei, Enin, Ryokei の添字と対応している。
 - 上映時間帯は1(午前), 2(午後), 3(夜間)である。
 - 年齢区分は1～5であり、配列 Ryo, Knin の添字と対応している。
- ユーザーフォーム初期化時に次の処理を行う。
 - 第1図の映画データを読み、映画名を配列 Emei に記憶する。また、料金を配列 Ryo に記憶する。

配列

Emei	(0)	(1)	(2)	(3)	～	(9)	(10)
		○～○	△～△	●～●	～	□～□	◇～◇

Ryo	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
		1800	1500	1200	1000	1200
		(一般)	(大・高)	(中)	(小)	(シニア)

- 第2図の営業データを読み、映画コード別人数計を配列 Enin に集計する。なお、Enin(0) は合計用に利用する。また、年齢区分別人数計を配列 Knin に集計する。

配列

Enin	(0)	(1)	(2)	(3)	～	(9)	(10)
					～		
	(合計)						

Knin	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	(一般)	(大・高)	(中)	(小)	(シニア)	

- 「夜間一般割引」と「週末子ども割引」を実施している。「夜間一般割引」は、上映時間帯が夜間で年齢区分が一般の場合、料金を半額に割り引く。「週末子ども割引」は、曜日が土または日で年齢区分が子どもの場合、同様の処理を行う。
- 人数と料金から料金計を求め、映画コード別料金計を配列 Ryokei に集計する。なお、Ryokei(0) は合計用に利用する。

配列

Ryokei	(0)	(1)	(2)	(3)	～	(9)	(10)
					～		
	(合計)						

- 第3図のように目標人数を TextBox1 に入力し、処理ボタンをクリックすると次の処理を行う。
 - 映画名、映画コード別人数計、映画コード別料金計、および人数計と料金計の合計を Label11 に表示する。
 - 年齢区分別人数計を Label12 に表示する。
 - 人数計の合計と目標人数の差を求め、Label13 に表示して処理を終了する。

< マクロ言語プログラム >

```

Option Explicit
Dim Emei(10) As String, Ryo(5) As Long, Enin(10) As Long, Knin(5) As Long, Ryokei(10) As Long

Private Sub UserForm_Initialize()
    Dim h As Long, i As Long, j As Long, Youbi As Long, Ecode As Long, Jikan As Long, Kubun As Long, Ninzu As Long, Rkin As Long
    Dim Rkei As Long
    For h = 0 To 10
        Enin(h) = 0
        Ryokei(h) = 0
    Next h
    For i = 1 To 5
        Knin(i) = 0
    Next i
    Open ThisWorkbook.Path & "Yeiga.csv" For Input As #1
    j = 1
    Do While Not EOF(1)
        Input #1, Emei(j)
        j = j + 1
    Loop
    Close #1
    Ryo(1) = 1800: Ryo(2) = 1500: Ryo(3) = 1200: Ryo(4) = 1000: Ryo(5) = 1200
    Open ThisWorkbook.Path & "Yeigyo.csv" For Input As #2
    Do While Not EOF(2)
        Input #2, Youbi, Ecode, Jikan, Kubun, Ninzu
        Enin(Ecode) = Enin(Ecode) + Ninzu
        Enin(0) = (1)
        Knin(Kubun) = Knin(Kubun) + Ninzu
        Rkin = Ryo(Kubun)
        If (2) Kubun = 1 Then
            Rkin = Rkin / 2
        End If
        If Youbi >= 6 And Kubun = 4 Then
            Rkin = Rkin / 2
        End If
        Rkei = Ninzu * Rkin
        (3)
        Ryokei(0) = Ryokei(0) + Rkei
    Loop
    Close #2
    Call Syokika
    Label1.Caption = "": Label2.Caption = ""
End Sub

```

```

Private Sub 処理_Click()
    Dim Mokuhyo As Long, m As Long, n As Long, Sa As Long
    Mokuhyo = Val(TextBox1.Text)
    Label1.Caption = ""
    For (4)
        Label1.Caption = Label1.Caption & Emei(m) & " " & Format(Enin(m), "#,##0") & " " & Format(Ryokei(m), "#,###,##0") & _
            Chr(13) & Chr(10)
    Next m
    Label1.Caption = Label1.Caption & " 合計 " & Format(Enin(0), "##,##0") & " " & _
        Format(Ryokei(0), "##,###,##0")
    Label2.Caption = ""
    For n = 1 To 5
        Label2.Caption = Label2.Caption & Format(Knin(n), "#,##0") & Chr(13) & Chr(10)
    Next n
    Sa = (5)
    Label3.Caption = Format(Sa, "##,##0")
End Sub

```

```

Private Sub クリア_Click()
    Call Syokika
End Sub

```

```

Private Sub 終了_Click()
    End
End Sub

```

```

Private Sub Syokika()
    TextBox1.Text = ""
    Label3.Caption = ""
End Sub

```

【 7 】 プログラムの説明を読んで、プログラムの(1)～(5)を答えなさい。

＜プログラムの説明＞

処理内容

スイミングスクールの受講生ファイルを読み、特別スクール候補生・合格級状況一覧を印字する。

入力データ

受講生ファイル（ファイル名：JYUKOU-F，レコード名：JYUKOU-R）

受講生コード (SEIKODO)	年齢 (NEN)	級 (KYU)
×××××	××	××

(第 1 図)

実行結果

（ファイル名：ITIRAN-F，レコード名：ITIRAN-R）

(特別スクール候補生・合格級状況一覧)		
(特別スクール候補生)		
(級)	(受講生コード)	(年齢)
5	MS017	8
}	}	}
3	WS093	10
(特別スクール候補生人数)		8
(合格級状況)		
(級)	(累計人数)	(達成率(%))
1	16	3
2	31	6
}	}	}
10	215	41
(総受講生人数)		514

(第 2 図)

処理条件

- 級は 1 級から 25 級であり，受講生は 25 級から始めて 1 つずつ順番に合格している。
- 第 1 図の受講生ファイルを読み，次の処理を行う。
 - 10 級以内の級を合格している受講生の累計人数をテーブル TASSEI-TAB に集計する。例えば，級が 5 級の場合，10 級から 5 級まですべてに合格しているため，TASSEI-TAB の 10 級から 5 級すべてに集計する。

テーブル TASSEI-TAB

TASSEI	(1)	(2)	(3)	(4)	～	(8)	(9)	(10)
					～			
	(1 級)	(2 級)	(3 級)	(4 級)	～	(8 級)	(9 級)	(10 級)

- 年齢が 10 歳以下で 5 級以内を合格している受講生を特別スクール候補生として集計し，第 2 図のように印字する。
- ファイルを読み終えたあと，次の処理を行う。
 - 特別スクール候補生人数を印字する。
 - 各級の達成率(%)を次の計算式で求め，1 級から 10 級までの累計人数とともに印字する。

$$\text{達成率}(\%) = \frac{\text{各級の累計人数}}{\text{総受講生人数}} \times 100 \div \text{小数点以下切り捨て}$$
 - 総受講生人数を印字する。

< COBOL プログラム >

WORKING-STORAGE SECTION.

```

01  END-F          PIC 9(01).
01  SONIN          PIC 9(03).
01  TONIN          PIC 9(03).
01  H              PIC 9(02).
01  J              PIC 9(02).
01  RITU           PIC 9(03).
01  TASSEI-TAB.
    02 TASSEI      PIC 9(03) OCCURS 10 TIMES.
01  MEISAI1.
    02             PIC X(06) VALUE SPACE.
    02 M-KYU1      PIC 9(01).
    02             PIC X(04) VALUE SPACE.
    02 M-SEIKODO   PIC X(05).
    02             PIC X(10) VALUE SPACE.
    02 M-NEN       PIC Z9.
01  MEISAI2.
    02             PIC X(05) VALUE SPACE.
    02 M-KYU2      PIC Z9.
    02             PIC X(06) VALUE SPACE.
    02 M-NIN       PIC ZZ9.
    02             PIC X(10) VALUE SPACE.
    02 M-RITU      PIC Z9.
01  MEISAI3.
    02             PIC X(29) VALUE SPACE.
    02 M-NINZU     PIC ZZ9.

```

PROCEDURE DIVISION.

P1. OPEN INPUT JYUKOU-F OUTPUT ITIRAN-F

INITIALIZE END-F SONIN TONIN (1)

PERFORM UNTIL END-F = 1

READ JYUKOU-F

AT END

MOVE 1 TO END-F

NOT AT END

COMPUTE SONIN = SONIN + 1

IF KYU <= 10

THEN

PERFORM VARYING H FROM 10 BY -1 UNTIL (2)

COMPUTE TASSEI(H) = TASSEI(H) + 1

END-PERFORM

IF NEN <= 10 (3)

THEN

COMPUTE TONIN = TONIN + 1

MOVE KYU TO M-KYU1

MOVE SEIKODO TO M-SEIKODO

MOVE NEN TO M-NEN

WRITE ITIRAN-R FROM MEISAI1 AFTER 1

END-IF

END-IF

END-READ

END-PERFORM

MOVE (4) TO M-NINZU

WRITE ITIRAN-R FROM MEISAI3 AFTER 1

MOVE SPACE TO ITIRAN-R

WRITE ITIRAN-R AFTER 2

PERFORM VARYING J FROM 1 BY 1 UNTIL J > 10

MOVE J TO M-KYU2

MOVE TASSEI(J) TO M-NIN

COMPUTE (5) / SONIN

MOVE RITU TO M-RITU

WRITE ITIRAN-R FROM MEISAI2 AFTER 1

END-PERFORM

MOVE SONIN TO M-NINZU

WRITE ITIRAN-R FROM MEISAI3 AFTER 1

CLOSE JYUKOU-F ITIRAN-F

STOP RUN.

(平成25年 9 月22日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成25年度（第49回）情報処理検定試験プログラミング部門 第2級
解 答 用 紙

【1】

1	2	3	4	5

【2】

1	2	3	4	5

【3】

1	2	3	4	5

小 計

【4】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
回				

【5】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

【6】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

小 計

.....〔J a v a〕・〔マクロ言語〕・〔COBOL〕.....

【7】

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

試験場校名	受 験 番 号	選 択 言 語		
		J a v a	マクロ言語	COBOL

小 計

合 計

選択言語を で囲むこと

(平成25年 9 月22日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成25年度（第49回）情報処理検定試験プログラミング部門 第2級

審査基準

【1】	1	2	3	4	5	各2点 計10点
	ウ	オ	コ	キ	エ	
【2】	1	2	3	4	5	各2点 計10点
	カ	ア	ク	ケ	イ	
【3】	1	2	3	4	5	各2点 計10点
	ア	イ	ア	ウ	ウ	
【4】	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	各3点 計15点
	2回	0	3	8	イ	
【5】	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	各3点 計15点
	コ	キ	ア	カ	エ	
【6】	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	各3点 計15点
	ウ	ケ	オ	ク	イ	

小計
30

小計
45

.....【Java】・【マクロ言語】・【COBOL】.....

【Java】（注）＝，演算子の前後の空白は問わない。

【7】	<table><tr><td>(1)</td><td>n e n <</td></tr><tr><td>(2)</td><td>s a i k o</td></tr><tr><td>(3)</td><td>g o k e i / n i n z u</td></tr><tr><td>(4)</td><td>i = h a j i m e</td></tr><tr><td>(5)</td><td>k y o r i K e i</td></tr></table>	(1)	n e n <	(2)	s a i k o	(3)	g o k e i / n i n z u	(4)	i = h a j i m e	(5)	k y o r i K e i
(1)	n e n <										
(2)	s a i k o										
(3)	g o k e i / n i n z u										
(4)	i = h a j i m e										
(5)	k y o r i K e i										

【マクロ言語】（注）大文字，小文字および＝，演算子の前後の空白は問わない。

【7】	<table><tr><td>(1)</td><td>E n i n (0) + N i n z u</td></tr><tr><td>(2)</td><td>J i k a n = 3 A n d</td></tr><tr><td>(3)</td><td>R y o k e i (E c o d e) = R y o k e i (E c o d e) + R k e i</td></tr><tr><td>(4)</td><td>m = 1 T o 1 0</td></tr><tr><td>(5)</td><td>E n i n (0) - M o k u h y o</td></tr></table>	(1)	E n i n (0) + N i n z u	(2)	J i k a n = 3 A n d	(3)	R y o k e i (E c o d e) = R y o k e i (E c o d e) + R k e i	(4)	m = 1 T o 1 0	(5)	E n i n (0) - M o k u h y o
(1)	E n i n (0) + N i n z u										
(2)	J i k a n = 3 A n d										
(3)	R y o k e i (E c o d e) = R y o k e i (E c o d e) + R k e i										
(4)	m = 1 T o 1 0										
(5)	E n i n (0) - M o k u h y o										

【COBOL】

【7】	<table><tr><td>(1)</td><td>T A S S E I - T A B</td></tr><tr><td>(2)</td><td>H < K Y U</td></tr><tr><td>(3)</td><td>A N D K Y U < = 5</td></tr><tr><td>(4)</td><td>T O N I N</td></tr><tr><td>(5)</td><td>R I T U = T A S S E I (J) * 1 0 0</td></tr></table>	(1)	T A S S E I - T A B	(2)	H < K Y U	(3)	A N D K Y U < = 5	(4)	T O N I N	(5)	R I T U = T A S S E I (J) * 1 0 0
(1)	T A S S E I - T A B										
(2)	H < K Y U										
(3)	A N D K Y U < = 5										
(4)	T O N I N										
(5)	R I T U = T A S S E I (J) * 1 0 0										

各5点 計25点

試験場校名	受 験 番 号	選 択 言 語			小 計	合 計
		J a v a	マクロ言語	COBOL	25	100

選択言語を ☐ で囲むこと